

第8回企画運営委員会（10.3.23）のまとめ

第8回企画運営委員会は3月23日に行いました。今年度最後の会議だったので、「今年度の活動のふりかえり」と「平成22年度事業企画の検討」をテーマに2つのグループに分かれて話し合いました。話し合いの内容は以下のとおりです。配布された資料とあわせてご覧ください。

平成21年度「福祉の学び舎事業」の活動のふりかえり

～1年間やってきたことをふりかえってみて、どうでしたか？

- 全体的に良かった。
- いろいろな団体や他地域のことを知ることができた。
- 実際に見たからわかることがたくさんあった。感動もあった。
- 実際につながりができた。
- 交流会や会議を積み重ねることによって、「少し知っている」程度からだんだん顔見知りになり、気軽に連絡を取る関係ができた。
- 具体的な連携が生まれた（あおぞらポコレーション、ふれジョブ江南区）。
- 自分の中で、何をやるか目標ができた。
- 少しずつでも交流が生まれ、具体的な連携ができあがっていくといい。
- 少しずつやっていくのが良かった。1年限りでなく3年続くことはいい。
- 事業が始まった当初は、何をやっているのかわからなかったが、回を重ねていったら理解できるようになった。
- 会議も含め、日程が合わず参加できないものがあって残念だった。日程は1ヶ月前には決めてほしい。
- 現地見学会に参加したかったが、日程が合わず残念。消化不良の感じがある。

平成 22 年度「福祉の学び舎事業」の事業企画の検討

～企画骨子案（配布資料）をたたき台として、来年度の事業企画について検討

- 全体の企画骨子はいいと思う。
- 異業種や異分野とのつながりづくりは良い。

- 福祉関係者や団体の交流をもっと充実させることと、もっと多様な人に加わってもらうようにすることの2点をしっかり行いたい。

- さまざまな分野や地区があるので、現場訪問ツアー・茶話会は回数をもっと増やしてもよいのではないか。
 - いろいろなアイデアが出されました。
 - ・参加定員は少人数で数多く開催するほうがいい？
 - ・見学だけでなく“お手伝い”“体験”も含まれているとよい。
 - ・福祉作業所以外に、子育て支援センターも見学先にしたい。
 - ・自分の関わっている分野（発言者は障害者の作業所の方）や他の分野の方々が、地域とどんなふうに関わりつき、どんなことをやっているか知りたい。
 - ・分野ごとに「学び舎事業」で何ができるか、どんなことを学ぶか、考えたい。
 - ・異業種の団体のところに行って話を聞くのもいい。
 - ・お店などの設備（車いすなど）の使い勝手などをチェックし、意見交換をすることがあってもいい。
 - ・学べる事例もある（木津のお茶の間とふたば保育園の交流、退職後の男性を対象とした亀田地区の「万年会」、高齢者のボランティア活動、コミュニティ協議会のささえ合い事業など）。

- 分野によって学びたいテーマが違ったりするので、企画運営委員会で「学びたいテーマ」出しを早めにやろう。

- 催しも会議も日程を早めに決めよう。

- 平成 21 年度の活動はつながりづくりのきっかけとなった。22 年度は学びを深めたり、もっと深いつながりができるようにステップアップする企画としたい。

- 退職後の男性の力を活かしたいので（もっといろいろできるはず）、参加してもらえそうな工夫を考えたい。

- 子どもたちや若い人たちにも参加してもらえそうな工夫を考えたい。
- 決められたことをするのではなく、みんなで何をやるか決め、楽しみながら進めたい。

話し合っているうちに、今後の活動についてさまざまなアイデアが出され、春以降の活動もわくわくするような雰囲気になってきました。さらに詳しい企画内容については、4月に入ってから検討していきます。新年度の企画運営委員会の日程は未定ですが、できるだけ早くお知らせするようにします。今後ともどうぞよろしく願いいたします。